



私の臨床レポート

山梨県
秋山歯科医院

秋山 勝彦
先生

今回のアイテム

オブチボンドXTR／エヌ・エックス・スリー

ベニヤ・クラウン混在前歯部への応用

上顎前歯を、接着システムはオブチボンドXTR／光重合型セルフエッチ2ステップボンディングシステム、セメントは、NX3ライトキュアシリレンジホワイトのレジンセメントを利用して補綴処置を行ったのでここに報告したい。

初診時、患者 51歳・歯科医師、下顎が前方に移動し、結果、ディープバイトになり、咬合上の問題があると判断して全顎的な矯正処置を行う。

左右2番はすでに大きくCR充填されており、補強の意味も込めてベニヤで補綴する。右上1番は歯根破折で、矯正的挺出を以前に行い、メタルポストを入れてメタルボン

ドで補綴されているが、今回金属の深いポストを除去し、ファイバーポストを入れてフルセラミックで補綴する。左上の1番も表面は薄く摩耗しているので最小限のエナメル質の削合で、ベニヤで補綴する。

治療の順番としては、全顎の矯正をまず行った。動的矯正期間は約9ヵ月、臼歯部のエンド、カリエス、補綴処置を行い、最後に上顎前歯の治療を行った。

前歯の治療で難しいと思われるのは、左右上顎1番の補綴方法がベニヤとフルセラミッククラウンなので、色を合わせる事が難しいと考え、技工士と相談し、まず右上2番と左上1、2番の3本のベニヤを行い、後に右上1番の治療を行った。最小限に形成されており、エナメル質は残っている。

オブチボンドXTRは、従来のレジンセメントよりもシンプルに作業が行えるので、ベニヤを正確に歯面に接着させる事ができた。

ベニヤセット直後、右上1番の形成を行ったが、歯根の長さが左上1番と異なるという事は、歯頸ラインが理想的に左右対称にならない事を意味している。フルセラの近遠心類側の歯頸部のカウンターをオーバーに指示し、できるだけ左右対称になる様につとめた。結果として左右上顎1番の色は合っており違和感はないが、歯頸ラインは、違和感が残ってしまった。大きな反省点である。患者はこの治療に満足している。



4. デンタルエックス線 右上の一番の歯根の位置が左上1番と異なる。深くまでメタルポストが入っている。



10. オブチボンドXTRのアドヒーズを塗布



3. 全顎矯正開始時



7. 左上1、2番ベニヤ形成直後の状態



9. 補綴物



2. 初診時上顎前歯の状態



6. 右上2番ベニヤ形成直後の状態



8. 全体的状態



12. 右上1番の補綴物



15. 初診時の笑顔



16. 右上1番セット直後の笑顔



1. 初診時 正面



5. そのCBCT像



11. ベニヤをセットと同時に右上1番の形成印象を行った。



13. 右上1番セット直後の状態



14. 右上1番セット直後の全体像